

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400384		
法人名	医療法人社団清山会		
事業所名	グループホームはるかのかの杜 ユニット:すずな		
所在地	仙台市太白区向山二丁目13番8号		
自己評価作成日	平成29年8月31日	評価結果市町村受理日	

## ※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成29年9月15日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「One for all All for one」を事業所目標に掲げ、一人ひとりの想いを大切に、ご本人のやりたいことや希望などをすぐ実現できるよう努めています。また、昔からの習慣や、お好きなことに着目して、ホームに入居したからできなくなったということがないように、事前にご家族から聞き取りをしたり、来所時に伺うようにしています。毎月のユニットミーティングで、ご本人の言葉などをスタッフ皆で情報共有しており、他ユニット間でも一緒に実現できるようにしています。また、町内会に加入し、地域の催しものや近所の小学校と連携し、お互いのイベント時にお誘いするなど、声を掛け合っています。地域の方が気軽に遊びに来てもらえるよう、そして皆さんが楽しく、安心して暮らせる「家」を目指しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

向山高校の近くに2016年7月に開所した事業所である。ホームはバス通りに面しており、リビングは南向きで明るい。今年度、法人理念を「自立と共生の権利を尊ぶナラティブな関わりをめざす」とした。これをもとに管理者が事業所目標を作り、利用者の思いを聞くことを大切に、選択肢を増やすなど、利用者の権利を尊ぶ支援をめざしている。ユニット毎にも職員が目標を掲げている。職員はユニット会議時や、年2回の管理者との個別面談、法人による職員のアンケートにより意見要望を表すことができる。日常的に管理者に意見を出すこともできる。職員は日頃から利用者の情報を共有し、家族の来訪時は職員の誰もが意見要望を聞けるようにしている。月に1度、管理者からの手紙と新聞で家族に利用者の様子や運営状況を知らせている。地域連携を進めるために地域清掃など関われる様検討している。近隣の小学校や高校にもイベント開催時に働きかけ協力を得ている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GHはるかの社）「ユニット名 すずな」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、社是を念頭に置き、日々従事しています。法人の理念、社是に基づく事業所目標やユニット目標を掲げ、ミーティングや管理者との面談時に振り返りを行っています。理念の共有や理解に向けた取り組みを実施しています。	法人理念を基に事業所目標は「One for all All for oneを」掲げ、ユニットごとの目標も職員全員で作っている。利用者に寄り添い、思いを聞くことを大切にし、その人らしく過ごせるようケアしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、近隣への散歩や買い物を通じて地域の一員になれるよう交流できる機会を設けています。運営推進会議の際は、町内会長、民生委員の方々にもお越しいただきアドバイスを頂戴しています。またイベント時にはボランティアとして近所の方にご協力いただいています。	町内会に加入し総会にも参加している。普段から挨拶等で地域との交流が深まるよう努めている。事業所の夏祭りには、地域のボランティアが、おにぎり作りや利用者への浴衣の着付け等を手伝った。小学校とは、パイプ椅子を借りたり、学芸会に招待される関係である。	地域との交流が深まるよう、町内清掃などの行事に参加すると共に、事業所の情報を地域に発信し、理解や協力が得られる関係づくりをより一層すすめることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、事業所で行っている勉強会について参加いただいた方にもお伝えし、共有を図りアドバイスも行っています。また質問があった際にはすぐにお答えできるようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催しています。町内会長、民生委員、包括支援センターの方々、ご家族に参加いただき、状況の報告を行い助言をいただいたりします。また、内容についてはミーティングを通じスタッフ間で共有を図っています。	隔月で開催し町内会長、民生委員、地域包括職員、家族が参加している。事業所からヒヤリハットや、再発防止の取り組みなどの報告をしている。また、管理者が毎回テーマを決め話をしている。家族から避難訓練について質問があるなど意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では地域包括支援センターの方に参加いただき、事業所の活動の報告をしたり、アドバイスを頂戴しています。アドバイスをいただいた際にはスタッフ間で共有しています。	地域包括センターから、研修案内や、アドバイスを受けている。市の保護課の職員とも連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所での勉強会に身体拘束をしない勉強会を行っています。また安易に施錠をしないようにドアチャイムを設置するなどの工夫を行っています。	勉強会を年に一度行っている。施錠は20時から翌朝7時である。ユニット入り口には静かな音のベルを使用し出入りがわかるようにしている。玄関はセンサーチャイムを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の勉強会で虐待防止の勉強会を行っています。また、虐待まではいかない「不適切ケア」についても振り返りの機会を設けるなど、法人の取り組みを事業所の勉強会に活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部、外部研修への積極的な参加を声掛けし、成年後見制度について学ぶ機会を設けています。参加できなかったスタッフにはミーティングを通じて伝達しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約内容、重要事項を一緒に読み合わせし、その都度でた疑問に答え不安なく入居していただいています。また、説明後にも疑問や不安に応えるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時に入居者の方の日々の様子をお伝えするとともに、ご要望や意見を伺う機会を設けており、スタッフ皆で改善したり、共有を図っています。また玄関に意見箱を設置し、いつでも投書できるようになっています。	全家族に運営推進会議の案内をしていて、2～3家族が参加している。職員は日頃から利用者の情報を共有し、家族の来訪時は職員の誰もが意見要望を聞けるようにしている。月に1度、管理者からの手紙と新聞で家族に利用者の様子や運営状況を知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回個人面談を実施しています。また法人全体で実施するメンタルヘルスアンケートや仕事と職場のアンケートを通じてなかなか言えない意見や希望を拾い上げる機会を設けています。	ユニット会議時や、年2回の管理者との個別面談で職員の意見を聞いている。法人による職員のアンケート調査も行っている。日常的に管理者に意見を出すこともできる。職員からは集団で行うレクリエーションのあり方等意見があり反映している。資格取得は費用や勤務体制の配慮などで支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジ制度を法人として設け、自ら取り組んでいける仕組みがあります。また、職場のアンケートを通じてスタッフの意見を反映できるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修への参加や法人外の研修に関しては、スタッフの希望、能力に応じて自由に参加できるようにしています。また1年目、2年目とフォローアップ研修があり、スタッフからの意見を聞く機会もあります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月ある地域よろず懇話会で、同業者やそれ以外の職種の方との交流の機会を図っています。また内部研修を通じて横の繋がりができるような仕組みになっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族を含め、事前の面談やご本人の想いや困っていることを伺う機会を持ち、不安がなく入居できるように努めています。また信頼関係を構築できるようにご本人の立場にたつて関わりを持つようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から入居に至るまでの間、話し合いの場を多く持ち、ご家族の立場での不安な気持ちや悩み、要望を気軽に話せるようじっくりと時間を使って少しでも不安が軽減できるようお答えしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報をご家族や利用していた施設、病院スタッフ、ケアマネージャーから詳しくお聞きし、他職種で見極めを行い、助言を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフ、入居者という区別なく、お互いが困っていることに手を差し伸べられるような環境作りに努めています。皆で協力し、家事や買い物、得意なことを日々活かせるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも来ていただけるように面会時間などは設けていません。仕事の都合で夜遅く面会に来ていただくことも行っています。また、こまめに日々の様子を報告したり、受診時などの際は報告の連絡を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前に聞き取りを行い、馴染みの方との交流や関係が途切れないよう努めています。その方の馴染みの場所に行くイベントを実施しています。	一人ひとりの馴染みの場や人との関係が継続するよう努めている。競馬が好きだった利用者のために福島競馬場へ出かけたたりしている。家族や昔馴染みの友人の来訪や、家族と外出ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活する中でお互いの性格や個性を尊重しながら一緒に活動しています。スタッフが間に入ることで交流が図れる方の場合には積極的に関わりが持てるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の所へ遊びに行ったり、事業所に遊びに来てもらったりと、関係性が途切れることのないよう努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に関わりを大切にし、1人ひとりの想いを把握しながら生活しています。本人本位を尊重し、言葉に表せない方もこちらでくみ取るように努めています。	入居時に家族や利用者に聞き取りした情報とともに、日常的に思いや意向の把握に努めている。本人の希望することは、可能性があればやってみることで出来ることが増えた。利用者が行きたい場所へ外出することが多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査などを基にしたアセスメントシートを活用しながら把握に努めています。またご家族からも来所時に情報を伺い把握、共有に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの様子を毎日スタッフ間で共有しながら「気づき」を大切にしています。その中で現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	良い暮らしの為にご家族、スタッフ間で話し合いながらその方らしい介護計画を計画作成担当とともに共有しながら作成しています。	介護計画は年2回見直している。医師の指示や、利用者の状態に合わせた支援方法などについての職員の気づきなどをミーティングで検討しプランに活かしている。家族には来所時、又は電話で要望を聞き説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「気づき」を大切にし、日々の記録を基にして、ミーティングや日々の話しの中から実践や見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、またはご家族からの声を大切にし、その方にあったケアを柔軟に、できる限り取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の中で日々の様子を伝えたり、小さいお子さんが好きな方は小学校の学芸会を観に行ったりと少しずつですが交流を図っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族からの希望により、受診の付き添いをしたり往診の利用をしています。また、昔からのかかりつけ医がある方は、そのまま受診を継続し医療との連携を図っています。	利用者の多くが、入居時に協力医療機関の往診医をかかりつけ医として、月2回受診している。以前からのかかりつけ医や専門医への受診は職員が同行している。家族へは受診後報告をしている。歯科は訪問診療を受けることができるが、家族が付き添い受診する人もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回看護師が勤務しており、その都度報告を行い情報を共有しております。看護師不在時もノートに記載し後にアドバイスをもらうなどしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院やかかりつけ医は事前にご家族から伺い、緊急時にスムーズに対応できるように努めています。受診時にも病院関係者と情報交換や相談を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の方はまだありませんが、重度化した時のことをスタッフ、ご家族間で話し合いを行っています。「今何をしたいか」「できるか」を常に話し合いながら取り組んでいます。	「重度化した場合における(看取り)指針」を作成し看取り体制が整っている。家族とは看取りについて話し合っている。職員間で勉強会を年に一度行っている。夜間の対応について本部に相談できる体制がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所の勉強会の中で緊急時対応や事故発生時の対応を行っています。また、勉強会以外のミーティングの中でも振り返りを行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会で行っている防災訓練に参加したり、事業所の中でも避難訓練を定期的に行っています。	火災、地震、水害等夜間想定を含め年4回避難訓練をしている。消防署立ち会いでも行っている。連合町内会の防災訓練にも参加している。消火設備点検は年に1回、非常用食料も備蓄している。近隣住民との連携はまだ出ていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所の中で、不適切ケアの勉強会を行い、お声かけの工夫や羞恥心を損ねないような言葉で接しています。また、スタッフ間での関係性を築いています。	接遇やプライバシー保護についての研修をしている。利用者の尊厳を守り、これまでのくらしが継続できるよう支援している。呼び方は本人や家族に希望を聞いている。トイレ誘導はさりげなく、トイレ使用時は戸を閉め、開ける時はノックするなど羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方らしく生活をして頂くためにやりたいことを伺ったり、ご本人が決められるような選択を働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの都合で動くことがないよう、常にその方が「したいこと」「したいけど言葉にできないこと」の想いをくみ取るように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スタッフが決めるのではなく、一人ひとり事前にご家族からお好きな恰好や好きな色などを伺い、おしゃれに反映できるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好き嫌いの把握や、話の中で出た食べ物を献立に反映しています。また食事の支度から片付けまでを一緒に行っています。	ユニット毎に職員の献立係が献立を作っている。買い物は宅配も利用しているが、近隣のスーパーへ利用者も出かけ顔馴染みになっている。職員と利用者が一緒に食事の準備や片付け、食事をしている。栄養管理を行い、塩分制限がある人にも対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの水分、食事量の把握を日々の記録で行っています。また、医師からの塩分制限があった方の食事の提供方法は、他事業所の栄養士に相談しアドバイスをいただきました。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に一人ひとりの口腔内の状態を把握しながら、口腔ケアのお声かけや状態の観察に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗の原因を追究し、日々の記録やご本人の状況を把握し、不快なく過ごせるようパットの有無や大きさなど工夫を図っています。	排泄パターンを把握し各々の状態にあった支援をしている。夜間は居室のトイレ・ポータブルトイレ、オムツ・パット使用など様々である。便秘対策には水分摂取や乳酸菌飲料を使用し医師からの薬を利用する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症状がある方には下剤に頼るのではなく、散歩や体操など体を動かす機会をもつていただいています。また、自家製のヨーグルトを提供したり、食事面での工夫を図っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望にそった入浴を心掛けています。朝、昼、夕関係なく快適に入浴していただけるよう努めています。あまりお好きでない方は時間やスタッフを変えてお声かけしています。	入浴は週2回以上を基本にし、利用者が希望する時間に対応している。拒否する人には時間や職員を変えたりしている。入浴剤や使い慣れたシャンプーなどで入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼に休みたい方は休んでいただき、夜間ゆっくり休んでいただけるように環境面に配慮しています。日中、夜間と体調変化に気づけるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり内服している薬の内容の把握をスタッフ全員で行っています。症状の変化を観察し、すぐに確認できるよう日々のファイルに情報を挟んでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントシートやご家族からの情報、ご本人からの声を大切にし、昔からの趣味や得意なこと、お好きなことの把握、実践を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	普段のドライブや買い物に加え、楽しんでいただくためにイベントの開催をしています。ご家族や地域の方の協力のもと行っています。	花見、紅葉、祭りなど季節ごとの行事を楽しんでいる。競馬や野球観戦、サーカス等にも外出している。家族も一緒に行く事もあった。全員での外出時は車3台に分乗し車椅子も持っていく。近所のスーパーへの買い物にも出かけている。家族との外出や外泊する人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身の手元がないと不安な方には安心していただくよう出納帳の確認を一緒に行ったり、金庫でお預かりしていることを話しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	来所が困難な他県の方と話したいときに気軽に電話できたり、昔なじみの方に会える様面会時間の規制は行っていません。仕事の都合で深夜になってしまうご家族でも会えるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お好きな音楽やテレビの音量や、温度、湿度に配慮を心掛けています。また共用部分での四季を大切にしたい設え作りを皆さんと一緒に作成しています。	リビングは南に面し広々として明るい。くつろぎスペースにはソファがある。リビングで日中を過ごしている利用者が多い。対面キッチンからはリビングが見渡せる。外出時の写真や絵画を飾っている。自宅に居る時と同様な居住空間をめざし、掲示物などに配慮している。居室には個人情報に鑑み表札はない。温・湿度は適切に管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人ひとりの希望、過ごし方を把握できるよう日々の話しから席の配置や、過ごしやすい環境を作れるよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだものを活かすためにご家族の協力のもとで揃えたり、ご本人の希望に沿ったものを一緒に準備し、危険がないような空間作りを行っています。	エアコン、ベッド、洗面台、物入れが備えられている。部屋により広さや壁の色が異なりトイレが付いている部屋もある。部屋の空き状況により希望して移動することができる。利用者は家族の写真、テレビ、衣類ケースを持ちこんでいる。掃除は朝に職員と一緒にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の方が移動しやすいよう、また歩行状態の観察をおこない、危険がないように家具や物の場所の工夫を図っています。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400384		
法人名	医療法人社団清山会		
事業所名	グループホームはるかのかの杜 ユニット:はぎ		
所在地	仙台市太白区向山二丁目13番8号		
自己評価作成日	平成29年8月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成29年9月15日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「One for all All for one」を事業所目標に掲げ、一人ひとりの想いを大切に、ご本人のやりたいことや希望などをすぐに実現できるよう努めています。また、昔からの習慣や、お好きなことに着目して、ホームに入居したからできなくなったということがないように、事前にご家族から聞き取りをしたり、来所時に伺うようにしています。毎月のユニットミーティングで、ご本人の言葉などをスタッフ皆で情報共有しており、他ユニット間でも一緒に実現できるようにしています。また、町内会に加入し、地域の催しものや近所の小学校と連携し、お互いのイベント時にお誘いするなど、声を掛け合っています。地域の方が気軽に遊びに来てもらえるよう、そして皆さんが楽しく、安心して暮らせる「家」を目指しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

向山高校の近くに2016年7月に開所した事業所である。ホームはバス通りに面しており、リビングは南向きで明るい。今年度、法人理念を「自立と共生の権利を尊ぶナラティブな関わりをめざす」とした。これをもとに管理者が事業所目標を作り、利用者の思いを聞くことを大切に、選択肢を増やすなど、利用者の権利を尊ぶ支援をめざしている。ユニット毎にも職員が目標を掲げている。職員はユニット会議時や、年2回の管理者との個別面談、法人による職員のアンケートにより意見要望を表すことができる。日常的に管理者に意見を出すこともできる。職員は日頃から利用者の情報を共有し、家族の来訪時は職員の誰もが意見要望を聞けるようにしている。月に1度、管理者からの手紙と新聞で家族に利用者の様子や運営状況を知らせている。地域連携を進めるために地域清掃など関われる様検討している。近隣の小学校や高校にもイベント開催時に働きかけ協力を得ている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GHはるかの杜）「ユニット名 はぎ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、社是を念頭に置き、日々従事しています。法人の理念、社是に基づく事業所目標やユニット目標を掲げ、ミーティングや管理者との面談時に振り返りを行っています。理念の共有や理解に向けた取り組みを実施しています。	法人理念を基に事業所目標は「One for all All for oneを」掲げ、ユニットごとの目標も職員全員で作っている。利用者に寄り添い、思いを聞くことを大切にし、その人らしく過ごせるようケアしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、近隣への散歩や買い物を通じて地域の一員になれるよう交流できる機会を設けています。運営推進会議の際は、町内会長、民生委員の方々にもお越しいただきアドバイスを頂戴しています。またイベント時にはボランティアとして近所の方にご協力いただいています。	町内会に加入し総会にも参加している。普段から挨拶等で地域との交流が深まるよう努めている。事業所の夏祭りには、地域のボランティアが、おにぎり作りや利用者への浴衣の着付け等を手伝った。小学校とは、パイプ椅子を借りたり、学芸会に招待される関係である。	地域との交流が深まるよう、町内清掃などの行事に参加すると共に、事業所の情報を地域に発信し、理解や協力が得られる関係づくりをより一層すすめることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、事業所で行っている勉強会について参加いただいた方にもお伝えし、共有を図りアドバイスも行っています。また質問があった際にはすぐにお答えできるようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催しています。町内会長、民生委員、包括支援センターの方々、ご家族に参加いただき、状況の報告を行い助言をいただいたりします。また、内容についてはミーティングを通じスタッフ間で共有を図っています。	隔月で開催し町内会長、民生委員、地域包括職員、家族が参加している。事業所からヒヤリハットや、再発防止の取り組みなどの報告をしている。また、管理者が毎回テーマを決め話をしている。家族から避難訓練について質問があるなど意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では地域包括支援センターの方に参加いただき、事業所の活動の報告をしたり、アドバイスを頂戴しています。アドバイスをいただいた際にはスタッフ間で共有しています。	地域包括センターから、研修案内や、アドバイスを受けている。市の保護課の職員とも連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所での勉強会に身体拘束をしない勉強会を行っています。また安易に施錠をしないようにドアチャイムを設置するなどの工夫を行っています。	勉強会を年に一度行っている。施錠は20時から翌朝7時である。ユニット入り口には静かな音のベルを使用し出入りがわかるようにしている。玄関はセンサーチャイムを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の勉強会で虐待防止の勉強会を行っています。また、虐待まではいかない「不適切ケア」についても振り返りの機会を設けるなど、法人の取り組みを事業所の勉強会に活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部、外部研修への積極的な参加を声掛けし、成年後見制度について学ぶ機会を設けています。参加できなかったスタッフにはミーティングを通じて伝達しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約内容、重要事項を一緒に読み合わせし、その都度でた疑問に答え不安なく入居していただいています。また、説明後にも疑問や不安に応えるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時に入居者の方の日々の様子をお伝えするとともに、ご要望や意見を伺う機会を設けており、スタッフ皆で改善したり、共有を図っています。また玄関に意見箱を設置し、いつでも投書できるようになっています。	全家族に運営推進会議の案内をしていて、2～3家族が参加している。職員は日頃から利用者の情報を共有し、家族の来訪時は職員の誰もが意見要望を聞けるようにしている。月に1度、管理者からの手紙と新聞で家族に利用者の様子や運営状況を知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回個人面談を実施しています。また法人全体で実施するメンタルヘルスアンケートや仕事と職場のアンケートを通じてなかなか言えない意見や希望を拾い上げる機会を設けています。	ユニット会議時や、年2回の管理者との個別面談で職員の意見を聞いている。法人による職員のアンケート調査も行っている。日常的に管理者に意見を出すこともできる。職員からは集団で行うレクリエーションのあり方等意見があり反映している。資格取得は費用や勤務体制の配慮などで支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジ制度を法人として設け、自ら取り組んでいける仕組みがあります。また、職場のアンケートを通じてスタッフの意見を反映できるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修への参加や法人外の研修に関しては、スタッフの希望、能力に応じて自由に参加できるようにしています。また1年目、2年目とフォローアップ研修があり、スタッフからの意見を聞く機会もあります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月ある地域よろず懇話会で、同業者やそれ以外の職種の方との交流の機会を図っています。また内部研修を通じて横の繋がりができるような仕組みになっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族を含め、事前の面談やご本人の想いや困っていることを伺う機会を持ち、不安がなく入居できるように努めています。また信頼関係を構築できるようにご本人の立場にたって関わりを持つようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から入居に至るまでの間、話し合いの場を多く持ち、ご家族の立場での不安な気持ちや悩み、要望を気軽に話せるようじっくりと時間を使って少しでも不安が軽減できるようお答えしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報をご家族や利用していた施設、病院スタッフ、ケアマネージャーから詳しくお聞きし、他職種で見極めを行い、助言を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフ、入居者という区別なく、お互いが困っていることに手を差し伸べられるような環境作りに努めています。皆で協力し、家事や買い物、得意なことを日々活かせるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも来ていただけるように面会時間などは設けていません。仕事の都合で夜遅く面会に来ていただくことも行っています。また、こまめに日々の様子を報告したり、受診時などの際は報告の連絡を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前に聞き取りを行い、馴染みの方との交流や関係が途切れないよう努めています。その方の馴染みの場所に行くイベントを実施しています。	一人ひとりの馴染みの場や人との関係が継続するよう努めている。競馬が好きだった利用者のために福島競馬場へ出かけたりしている。家族や昔馴染みの友人の来訪や、家族と外出ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活する中でお互いの性格や個性を尊重しながら一緒に活動しています。スタッフが間に入ることで交流が図れる方の場合には積極的に関わりが持てるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の所へ遊びに行ったり、事業所に遊びに来てもらったりと、関係性が途切れることのないよう努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	相手のペースに合わせた生活が継続してできるよう柔軟性を持ち、その方の想いを尊重したお声かけを心掛けています。	入居時に家族や利用者に聞き取りした情報とともに、日常的に思いや意向の把握に努めている。本人の希望することは、可能性があればやってみることで出来ることが増えた。利用者が行きたい場所へ外出することが多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新しく入居された方もすぐに馴染めるように生活歴の把握を行っています。また他の方もすぐにうちとけるようにスタッフが間に入り環境作りを行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの会話や全体の様子を観察し、その方が望む生活ができるようミーティング時に情報共有を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からの聞き取りや満足度を伺い、その方自身のケアプラン内の目標を達成できるようミーティング時に話しあい、実践、改善を行っています。	介護計画は年2回見直している。医師の指示や、利用者の状態に合わせた支援方法などについての職員の気付きなどをミーティングで検討しプランに活かしている。家族には来所時、又は電話で要望を聞き説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「気づき」を申し送りノートやミーティング、日々の中で情報共有し実践や改善点の把握に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況を把握し、望むことが実現できるようすぐに対応しています。具体的には「サーカスがみたい」と話されていた方の希望をご家族に話して一緒に行ったりもしました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園、施設など散歩しながら周辺地域の話などを行い、近隣の方とも交流の機会が持てるようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に希望に沿ったかかりつけ医を選んでいただいています。受診時や何かあった際にはご家族にすぐに連絡ができるようにしています。	利用者の多くが、入居時に協力医療機関の往診医をかかりつけ医として、月2回受診している。以前からのかかりつけ医や専門医への受診は職員が同行している。家族へは受診後報告をしている。歯科は訪問診療を受けることができるが、家族が付き添い受診する人もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回看護師が勤務しており、その都度報告を行い情報を共有しております。看護師不在時もノートに記載し後にアドバイスをもらうなどしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者には入院時にその方の情報を伝えています。また入院時や退院時に病院関係者に不安なことなどを相談し、助言をいただいています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所内で看取りに関する勉強会を行っています。まだ看取りの方はいませんが、ご家族の意向もこまめに伺っていくように努めています。	「重度化した場合における(看取り)指針」を作成し看取り体制が整っている。家族とは看取りについて話し合っている。職員間で勉強会を年に一度行っている。夜間の対応について本部に相談できる体制がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内で急変時や事故発生時の対応について勉強会を行っています。ユニットミーティング時も振り返りを行います。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練の参加、避難場所の把握、事業所でも避難訓練の実施をしています。	火災、地震、水害等夜間想定を含め年4回避難訓練をしている。消防署立ち会いでも行っている。連合町内会の防災訓練にも参加している。消火設備点検は年に1回、非常用食料も備蓄している。近隣住民との連携はまだ出来ていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩なので、常に言葉つかいや接し方に注意しながら、自尊心を損ねないようなお声かけを行っています。	接遇やプライバシー保護についての研修をしている。利用者の尊厳を守り、これまでのくらしが継続できるよう支援している。呼び方は本人や家族に希望を聞いている。トイレ誘導はさりげなく、トイレ使用時は戸を閉め、開ける時はノックするなど羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なんでも言える環境作りの工夫を行い、また言いやすいようにスタッフからお声かけを行っています。想いをくみ取ったり、決定できるようにお声かけの工夫を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの起床や就寝時間、食べ物の好みも異なり、その方のペースに合わせた生活をしていただいています。スタッフの都合にならないように徹底しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方のお好きな色の把握や、スタイルを事前に伺い、おしゃれができるようにしています。また月1回散髪やネイルケアを行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の好みを伺いながら献立を作成しています。食事の準備、片付けも男性、女性関係なくお手伝いしていただいています。また気分転換を兼ねて外食にもいっており、大変喜ばれています。	ユニット毎に職員の献立係が献立を作っている。買い物は宅配も利用しているが、近隣のスーパーへ利用者も出かけ顔馴染みになっている。職員と利用者が一緒に食事の準備や片付け、食事をしている。栄養管理を行い、塩分制限がある人にも対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスよく食事できるように献立を作成し、食事中に感想を伺っています。水分が少ない方には代わりになるようなヨーグルトやゼリーを召し上がっていただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず歯磨き、入れ歯の方は每晚洗浄剤を使用しています。口腔内の状態を常に観察し、歯科受診も行っていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄の状況を把握し、日中布の下着をはいていただく方が多い状況です。また排泄リズムを把握しながら自尊心を傷つけないようなお声かけを心かけています。	排泄パターンを把握し各々の状態にあった支援をしている。夜間は居室のトイレ・ポータブルトイレ、オムツ・パット使用など様々である。便秘対策には水分摂取や乳酸菌飲料を使用し医師からの薬を利用する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分など一人ひとりの方に応じた体調管理をしています。できる限り下剤に頼らないように日々活動にお誘いしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	朝風呂がお好きな方の希望に沿ったり、時間などは関係なく入浴していただいています。ご本人の使い慣れたシャンプーなどを使用し、入浴を楽しんでいただいています。	入浴は週2回以上を基本にし、利用者が希望する時間に対応している。拒否する人には時間や職員を変えたりしている。入浴剤や使い慣れたシャンプーなどで入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お部屋でゆっくり過ごしたい方など、ご本人のペースに合わせて1日を過ごして頂いています。無理なく休息できるようホールのソファも使用しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用などスタッフ間で共有し、服薬チェックも必ずダブルチェックを行い、事故防止に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	設えや買い物、ドライブなど、毎日変化のある生活をする中で、気分のリフレッシュをしていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食料品や日用品などの買い物や行きたいところ、思い出の場所など入居したことで行けないということがないように、多く外出の機会を設けています。ご本人、ご家族からも大変喜ばれています。	花見、紅葉、祭りなど季節ごとの行事を楽しんでいる。競馬や野球観戦、サーカス等にも外出している。家族も一緒に行く事もあった。全員での外出時は車3台に分乗し車椅子も持っていく。近所のスーパーへの買い物にも出かけている。家族との外出や外泊する人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金庫には1人ずつポーチがあり、必要な分を持ってご希望に応じてご使用いただくようにしています。出納帳を作成し、毎月ご家族に報告しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その方によって携帯電話を所持しており、ご家族や旦那さんに連絡をとりたいなど、すぐにお話ができ安心されています。スタッフからも毎月ご家族に日々の様子の手紙を郵送し、来所がなかなかできないご家族にも安心していただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に、毎月カレンダーを考えたり、一緒に写った写真を飾ったり、皆で作成した作品を飾るなど、生活感や季節感をとりいれています。	リビングは南に面し広々として明るい。くつろぎスペースにはソファがある。リビングで日中を過ごしている利用者が多い。対面キッチンからはリビングが見渡せる。外出時の写真や絵画を飾っている。自宅に居る時と同様な居住空間をめざし、掲示物などに配慮している。居室には個人情報に鑑み表札はない。温・湿度は適切に管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが居心地よく過ごしていただけるよう、気の合った方と同じ食席で過ごしていただいたり、テレビがお好きな方は観やすい食席にするなどして工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前自宅で使用していた物や写真などを置くことで使い慣れたものの継続や安心していただいています。またお部屋の清掃もご本人と一緒に、または許可を得て清掃しています。	エアコン、ベッド、洗面台、物入れが備えられている。部屋により広さや壁の色が異なりトイレが付いている部屋もある。部屋の空き状況により希望して移動することができる。利用者は家族の写真、テレビ、衣類ケースを持ちこんでいる。掃除は朝に職員と一緒にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理や洗濯干しなど出来ることは一緒に行い、歩行が不安定な方も安全に移動できるような環境作りを行っています。		